伊勢市廃棄物減量等推進審議会（令和2年度第1回）審議結果等

* 日時：令和2年11月4日（水）10時から
* 場所：伊勢市役所東庁舎5階5-3会議室
* 出欠：
  + 委員：別紙のとおり
  + 事務局

環境生活部長（藤本）、環境生活部参事兼清掃課長（出口）、清掃課副参事兼ごみゼロ推進係長（林）、ごみゼロ推進係主事（東條）、ごみゼロ推進係（森井）

* 審議結果等

事項書に記載の報告及び審議事項に関する事務局からの説明に対し、以下のとおり質疑応答及び審議が行われた。なお、単なる資料解釈に対する説明は省略してい

|  |  |
| --- | --- |
| ●報告事項  （○令和元年度ごみ排出量実績について） | |
| （委員1） | それぞれの立場から忌憚のない意見を活発にお願いしたい。まずは、事務局から報告をお願いします。 |
| （事務局1） | 【資料1】令和元年度のごみ総排出量は52,059ｔで、人口減少の割合で見ると0.8％減少している。家庭系ごみは35,159ｔで0.6％減となっており、人口減少ほど減っていない。事業系ごみは家庭系に比べると削減された。広域環境組合と実施している許可業者のごみ展開検査の効果もある。資源回収量は、例年同様減少している。  人口は減っても世帯数が減らないことで、なかなか家庭系の燃えるごみは減っていかない。  【資料1-2】ごみ処理基本計画は令和9年度を最終目標としている。実績として、平成30年度は資源類が多く出た年で、雑誌・雑紙がかなり多く、各自治会を回ったが令和元年度は多少効果が薄らいだ。 |
| （委員1） | 資料の年号は、令和に統一すべき。また、質問・意見がありましたら、お願いします。 |
| （委員2） | 資料1-1の集団回収量はどんな数字？自治会の粗大ごみは入っていないのか？ |
| （事務局1） | 再生資源奨励金での自治会等が、布類や缶類などを収集した量を表している。 |
| （委員3） | 粗大ごみが少なくなっている中で、見通しが多くなっている。使えるものは別にするように言われたが、その割にはごみを出す人が少なく反映されてない印象。もう少し自治会に周知をしたら、見通しは少なくなるのでは。 |
| （事務局2） | 資料1-2はごみ処理基本計画を作った時の数字で、5年後の見直しの時に数字が変わる。また、粗大ごみについては自治会周知は回覧もさせていただいている。 |
| （委員4） | 家庭系のごみが減りにくいという中で、世帯数が右肩上がりと言われているが、高齢者はそんなにごみを出さないのでは？もっと分析してもらったほうが良いのではないか。ごみの減量を考えるには分別だけではない。紙おむつの問題も増えており、水溶化しているシステムも全国でたくさんある。人口が減って世帯数が増えているのではなく、家庭ごみが増えているのは高齢化によるものではないか。医療・福祉の面にも目を向けては。 |
| （事務局2） | 毎年11月くらいにごみの組成調査をしているが、紙おむつも結構ある。いろいろ調査をしており全国的に九州でユニチャーム等で動きがある。鳥取県伯耆町では燃料化もしており、今後の施策を考えている。 |
| （委員1） | 人口が減っているのに、世帯数が増えている原因は高齢化？ |
| （事務局3） | 核家族化が考えられる。 |
| （委員1） | 根本原因は核家族化であり、高齢者はそんなにごみを出さないが、現実にはごみが増えている。それはごみ処理だけの問題ではないので、いろいろ問題もある。 |
| ●報告事項  ○令和元年度ごみ排出状況について | |
| （事務局1） | 【資料2-1】燃えるごみの総量について、コロナの影響でごみ出しの状況も顕著に表れている。燃えるごみは昨年度より72ｔ増加で、事業のごみはコロナで経済活動の低迷もあり、減っている。  【資料2-2】コロナ感染時期（Ｒ2.2月～9月）にかかるごみ搬出量は、燃えるごみは休校などステイホームの特徴がよく表れて資料2-1同様に家庭系が増えて、事業系は著しく減少している。粗大ごみと缶・金属類は家の片づけ等で増えている。資源ごみはいわゆる「中食」が増えたため、店舗からペットボトルやプラの持ち帰りも多くなった。 |
| （委員5） | コロナの影響もよくわかるが、資源化率の下落に伴って資源ごみが民間でなかなか回収していただけない状況もあり、買い取ってもらえなくなったので市の回収が増えたのもある。 |
| （事務局3） | 断捨離が進んでおり、ステイホーム外食しないのでライフスタイルも変わった。 |
| （事務局2） | 家の掃除の中で、草引きが増えていることも事実。 |
| （委員4） | 家庭系の燃えるごみは5月を見ると減っているが、どのように分析しているのか？コロナなどで増えているのでは？ |
| （事務局4） | 5月は例年ＧＷで出かけて催し物をする時期だが、今年は開催していない。例年は多くごみが出ている。レジャーの部分が大きいのでは。 |
| （委員4） | 資源ごみは今まで事業者（スーパー等）が取っていたが、今はスーパー内のステーションを撤退した。コロナによりお年寄りがわざわざ持ってくる人も少ない。事業者に対しての働きかけはどうしているのか？ |
| （委員5）  （委員2） | 店頭回収の分は市のものではないので、今まで量に反映されなかった。数字上はわからないので、出ていない。産業廃棄物も同じように資源化が下がっているので、買い取りができなくなってきてるので店頭回収がなくなり、必然として出すところがなくなって市のごみに出されていく。  家庭では、草の量が多くなっている。温暖化のせいである。 |
| （委員4） | 草は、今年は特に多い。肥料化・循環型社会にもう少し力を入れたほうがよい。清掃工場の7～8割は伊勢市のごみだが、税金を使うのであれば単に減らすだけではなく、違う視点で考えなければいけない。横の軸で他の課を巻き込んだほうが、効果が上がる。 |
| （事務局2） | 草は事業者に許可を出しているところがある。枝は今後検討して、チップ化など都市整備部と協議する必要がある。チップ化は家庭用の裁断機もあるので、今後の検討課題としたい。 |
| ●審議事項  　○令和2年度取組み施策について  　〇令和3年度施策（予定）について | |
| （事務局1） | 【資料3】進捗状況含めて報告する。食品ロスの取り組みは、冊子（冷蔵庫整理術）をキャンペーンチラシと共に配布し啓発した。また、市内スーパーなどと協働で「すぐ食べるなら連れてって」を今年は1か月させていただいた。未利用資源の資源化については、紙類（禁忌品）を市役所の中や三重県さん、ぎゅーとらさんにもご協力いただいた。SNSを通じた啓発では、LINEアプリを利用した分別チャットボットで伊勢市公式アカウントも増えて、好評をいただいた。  【資料4】次年度の予定は4本柱で、新たに給水スポットの設置で脱炭素社会の取り組みができたらと考えている。食品ロスは来年度もメインの施策とする。社協が重要保護世帯の学習支援をしている時にフードドライブを行っており、市もプラスになることをしていけたら。食品ロスキャンペーンも続ける。 |
| （委員6） | 昨年はくじのシールを剥がすパターンだったが、今年は賞味期限が近い商品をできるだけ抵抗なく買っていただくスタイル。お客様によっては、見切り品は恥ずかしいという面もあるため、それをなくすということでシールを集めてキャンペーンにお越しいただくよう提案させていただいた。実際そんなに応募はないと思ったが、かなりの量であった。お客様にとってはメリットがあることであれば、環境に関することは協力していただける土壌はかなりあることが理解できた。ありがとうございました。 |
| （委員1） | キャンペーンが広がっていけば、認識のある方はたくさんみえるので少しづつ効果はある。先進国特有の食品ロスだが、発展途上国にうまく運べると何万人もの食事になるが、残念ながらそういう仕組みにはなっていない。アイディアをいろいろ出して、少しでも改善できると良い。最近はＳＤＧｓ17項目に宇治山田商業高校が取り組んでいる。社会のしくみを変えていこうとしていてタイアップしているのがＳＤＧｓであり、非常に大きいのはお子さんに対する教育。  子供の時に学んだことが強い影響力を持って大人になっていくので、子供の教育に対して力を入れなくてはいけない。 |
| （委員3） | 今年2月に地域のまちづくりの委員会で、ごみを減らしましょうというチラシを作った。地元に農家がたくさんあり、草もかなり多く、地域でできることを推進していくことが大事。また町内の高齢者宅で道沿いに枝が張っている状態だったので、切って対応したが、きれいになるとごみが出るので安全面か環境面かを市で考えてもらえるとよい。幼児教育も大事だが、いつ誰がどういうふうになるかも含めて福祉も環境も市ぐるみで大きく考えて広げていく。ごみを減らすだけでは市民は耳を傾けないので、様々なことを考えなければ前に進まないのでは。 |
| （委員6） | フードドライブは、ぎゅーとらの松阪の店舗で行っており、団体の方に店頭を貸している。その場合、料金は頂かないので、もしやりたい団体がみえたら相談していたただければ。また、ごみのことで気が付いたことは半分近くが紙ごみである。再資源化するしくみがなかったが伊勢市から教えてもらい、パンフレットなどはリサイクルに回しており、1か月で段ボール何箱もある。知識さえあれば紙ごみは減らすことができる。スーパーの店頭で回収する仕組みで自分たちはなかなかできないが、イベントなどでやれば紙ごみはごみではなくて、資源になるという知識をつけることでごみは減らしていける。3月までトレイの回収をしていてお客さんには好評だったが、3密になるのと店舗で負担が大きいので回収を終了した。 |
| （委員1） | 雑がみはなるべく燃やさずに資源へ回すという認識を、皆さんに持っていただくようにしていかないといけない。フードドライブはどこかに連絡して持って行ってもらうということ？ |
| （事務局1） | イベント等で持ち寄るという意味合いで、市内だとほとんどが名古屋のセカンドハーベストというＮＰＯへ持って行っている。 |
| （委員7） | 社協でも行っているが、使用期限が3か月以上ないといけないなど残りの期限が長いものを取り扱っている。防災備蓄品など社協と相談したが、自治会が買っているものなので、半年や一年期限があるものは渡せないので難しい。 |
| （委員6） | 集めるより配るほうが難しいが、欲しいニーズは相当ある。 |
| （委員4） | 昔は米が多かったが、最近こども食堂で喜ばれるのは傾向的にはお菓子類。システムとして、社協はいつでも来てくれるので、行う団体が出てきてくれると食品ロスも減るし楽だと思う。 |
| （委員3） | 小さい事業所とタイアップしているとすぐ使える。個々で農家からすぐ買うような感じで、つながっている組織を作ると使いやすい。 |
| （委員7） | 社協と相談したが、定期的に入ってくるもの（フードドライブで渡すもの）なら期限1か月でも良いが（毎月1か月後に定期的に入る）、提供するほうはこういう物が余ったということで単発である。受ける側は常時なので、配り先等の調整が難しいと思う。 |
| （委員1） | ある程度規模が大きくないと、定期的なものは難しい。今後の課題も見えてきた。 |
| （委員3） | 紙ごみや封筒など入れる袋を作ったり、地域の人と実施して啓発チラシも作った。 |
| 〇その他 | |
| （委員1） | 委員3委員からは、個別ではなくもっと総合的に見ていく必要があるという話。委員4委員からも観点を変えて工夫・アイディアを出していくことが大きな意味がある。その仕事こそが審議会の使命であると強く感じさせられた。 |
| （事務局1） | 以上で審議会を終了する。 |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  | |